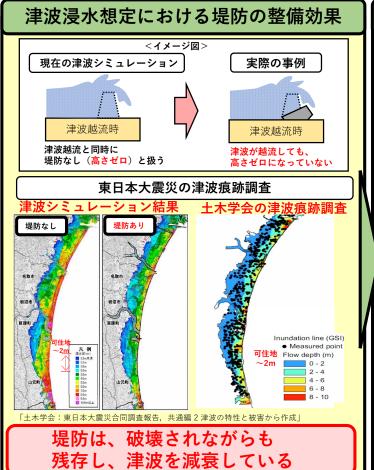
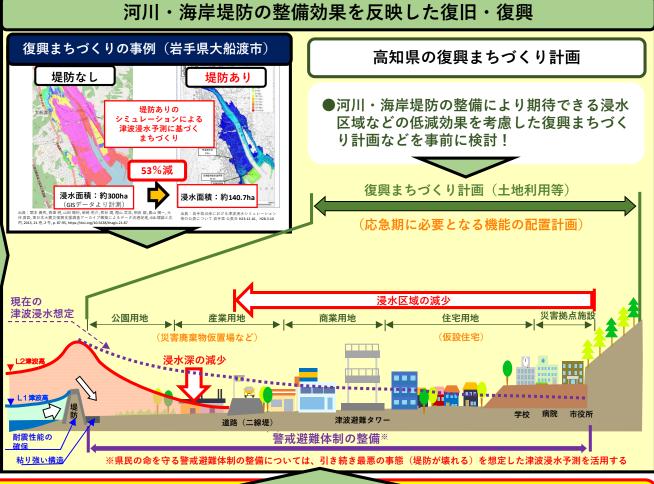
## 河川・海岸堤防の整備効果を踏まえた浸水想定を行うための評価手法の確立

- ◆ 国土強靱化関連予算などを最大限活用し、発生頻度の 高い一定程度の津波(L1津波)に対する堤防の整備を 促進している。
- ◆ また、最大クラス (L2津波)の浸水想定に対する警戒避 難体制※の整備を図っている。
- ◆ 仮設住宅や災害廃棄物仮置場など応急期に必要となる土地の確保や復興まちづくりのための土地利用計画は、L2津波の浸水想定や被害想定に対応できることが求められている。 しかしながら、国の方針では、最悪の事態(堤防が壊れてゼロになる条件)のシミュレーションによるため、想定規模が甚大となり土地の確保が困難となっている。
- ◆ これまでに多額の費用を投じて整備してきた河川・海岸堤防について、L2津波に対する効果の定量的な評価手法が確立されていない。





◆ これまで多額の費用を投じて整備してきた河川・海岸堤防について、最大クラス(L2)の津波に 対する効果を定量的に評価する手法を確立すること